大谷の獅子踊り

お話 / 佐藤孝男さん

〈復活した獅子踊り〉

父親もしていた大谷の獅子踊りを、私が始めたのは獅子踊りが復活した昭和 47 年。今年で 39 年目になる。

昔から続いていた獅子踊りは、昭和 37 年頃に若者がいなくなって途絶えてしまっていた。だけど、地元の若い衆で話し合って「やっぱり、何とか昔からある伝統を守ろう！復活させよう！」ということになった。当時連合区長を務めていた鈴木幸次郎さんにお願いに行き、念願が叶って、翌年に「大谷獅子踊保存会」が発足した。そうして 10 年ぶりに獅子踊りを復活させることができた。それから再び風祭りに参加するようになり、現在まで続けてきた。

私は大谷の浦小路（第 4 区）で育ち、中学を卒業してから宮宿の志藤看板塗装店に住み込みで 5 年働き、その後宮宿に婿にきたが、獅子踊りにはそのまま参加し現在も頑張っている。

〈練習〉

獅子踊りは「笛吹く人」「太鼓たたく人」「踊る人」の三つの役割りがある。

練習はみんなで音を合わせて、踊りも一緒に合わせて、通しての練習を何度も繰り返している。私も始めの頃は、レコード、テープを聞きながら、見様見まねで練習した。最初は太鼓担当だったが、笛吹く人がいなくなって、途中で笛をするようになった。元々楽器なんてなかったし、したことがなかったから、全体の音とリズムを感覚で覚えてやっている。元々太鼓を担当していたおかげで、笛のリズムは取りやすかった。しかし、獅子踊りで使う笛は穴が 7 つもあって、音を出すのがなかなか難しい。未だにその時その時で、上手に吹ける時と調子悪い時とある。水に浸けて吹くといい音が出るんだ。

練習が終わると、「明日も頑張ろう」という事でちょっとした酒飲みが始まる。お酒が入ると、今年のお祭りの話に花が咲いて、だんだん楽しみになってくる。そして頑張ろうという活力になる。

〈後継者の心配〉

31 歳になる息子も 5 年前から一緒に獅子踊りを盛り上げてくれている。親子で笛を担当している。

大谷獅子踊り保存会は、20 代半ばの若者から 60 代半ばの年輩者までいるが、近頃は若い人も参加してくれるようになって嬉しい。でも、年輩の人が多いという事は、これから引退する人も多くなるということ。若い人が少ない現状で、これからも獅子踊りを続けていけるかどうかが、正直心配なところだな。

〈風祭りの様子〉

風祭りは台風など風災害を鎮め、豊作を祈る祭り。出店もあり花火も上がり毎年大賑わいする。行列は、その大賑わいの村中を 2 時間ぐらいかけて周り、各所でそれぞれの区の演し物を披露し盛り上げて回る。

笛を吹いている時はとにかく楽しい。毎年張り切って元気に吹いている。祭りが終わった後は、寂しさは残るね。でも、また来年もある。楽しみな祭りを盛り上げていく事を励みに、また頑張ろうという気持ちになるんだ。

取　材 / 佐藤留美（朝日町観光協会職員）
取材日 / 平成 22 年（2010）7 月
写　真 / 堀敬太郎氏（大谷一）

※大谷獅子踊りは、
毎年 8 月 15 日の送り盆供養獅子舞（永林寺本堂前）、
8 月 31 日風祭り（大谷地区一円）で披露されます。

佐藤孝男（さとう・たかお）**氏**

昭和 26 年（1952）大谷生まれ。志藤看板塗装店（宮宿）に勤務。
昭和 47 年から大谷獅子踊りの太鼓を担当し平成 5 年からは横笛を担当する。
現在、大谷獅子踊り保存会で笛の親方を務める。